

# 塩尻市都市計画マスタープラン

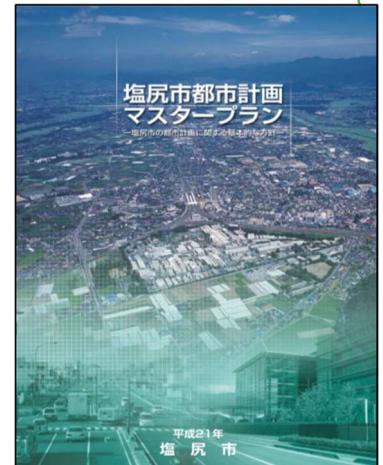
塩尻市では令和6年度中の公表を目指して  
「塩尻市都市計画マスタープラン」の見直しを進めています

## 全体構想の概要

1

### 「都市計画」と「都市計画マスタープラン」とは

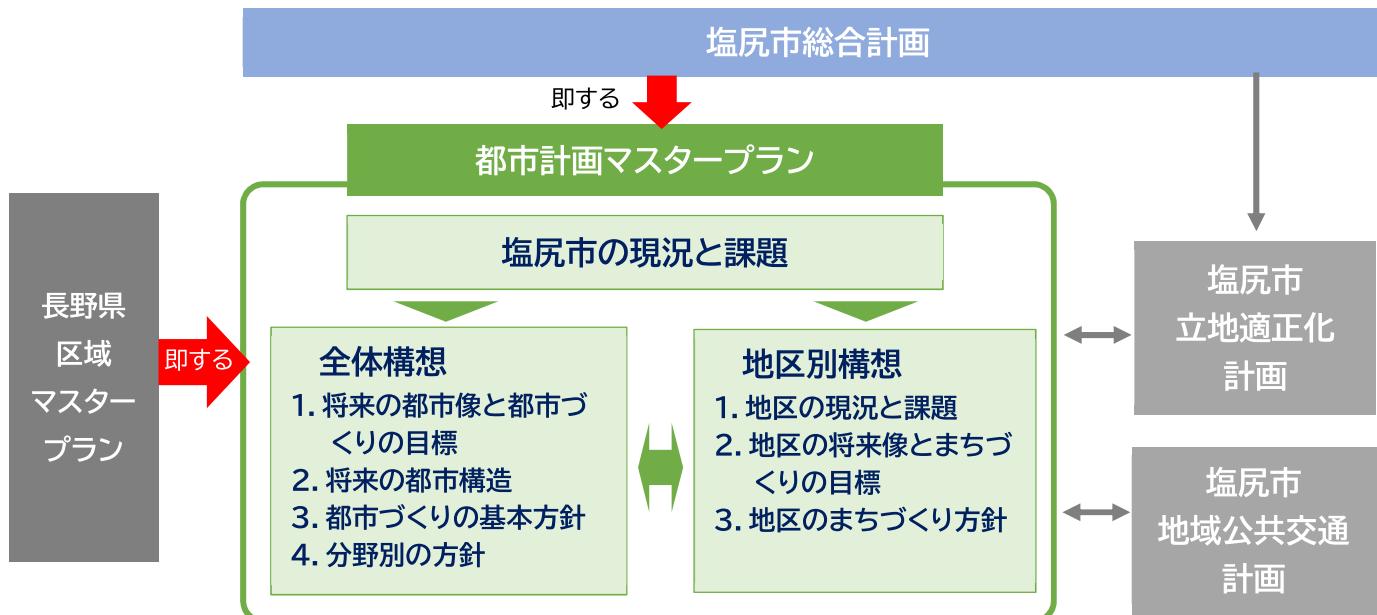
- 「都市計画」とは  
→ 土地の使い方のルール、道路や公園等の配置、計画的な市街地整備事業を定めるものです
- 「都市計画マスタープラン」とは  
→ 市町村が、市民の意見を反映して、将来のまちのあるべき姿やまちづくりの基本的方向性をわかりやすく示すもの  
→ おおむね 20 年後の都市の姿を展望し、個別の施策内容はおおむね 10 年後を目標として定めます



2

### 「都市計画マスタープラン」の構成

- 都市全体を対象とする「**全体構想**」、市内 10 地区毎に定める「**地区別構想**」によって構成され、塩尻市総合計画等に即して、市の都市計画の基本方針を定めます



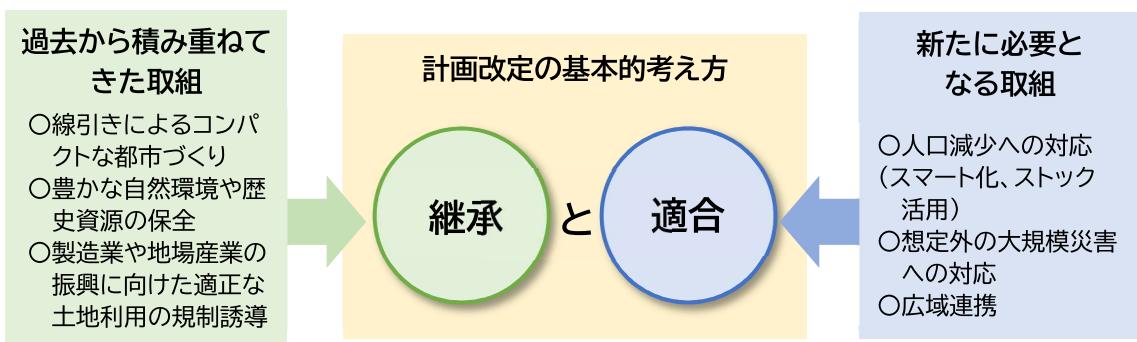
# 塩尻市都市計画マスタープラン

## 全体構想の概要

### 3

### 今回の改定の視点

- 過去から積み上げてきた取り組みを**継承**しつつ、新たな時代に求められる都市像へと**適合**させることを基本に計画を改定します



### 4

### タウンミーティングで確認したい事項

- 今回のタウンミーティングでは、地域の特性を踏まえたまちづくりの目標や方針を定める「地区別構想」の策定にあたって、地域の皆さんとの声を広く聞くものです
- 地区別構想では、最終的には地区が有する強み・弱みを整理した上で地区の抱える課題を抽出し、その課題を踏まえた地区の目標やまちづくりの方針を定めたいと考えています
- 数値的な事実等から、市で地区毎の強み・弱み、地区の目標等を暫定的に設定しますので、そこに対して皆さんが感じていることを述べていただき、案を練磨したいと考えています

# 高出地区

地区別構想の骨子

1

## 地区の歴史と成り立ち



- 明治 44 年に塩尻志学館高等学校の基となる東筑摩郡立南部乙種農学校が開校
- 昭和 8 年に JR 篠ノ井線の新駅として広丘駅が開業
- 昭和 31 年に東京都市大学塩尻高等学校の基となった信州電波専門学校が開校
- 昭和 34 年の塩尻市の成立や、昭和 39 年の松本・諏訪新産業都市指定以降、急速に宅地化や工場立地が進展し人口も急速に増加
- 昭和 39 年の松本・諏訪新産業都市指定以降、国道 19 号沿いに各種企業が進出
- 人口増加に伴い各種公共施設の整備が進み、昭和 56・57 年には高出区民体育館と青少年育成広場、昭和 61 年には中央スポーツ公園・広場がオープン
- 平成 2 年から平成 5 年の間には組合施行で高校北沿道地区土地区画整理事業が実施
- 平成 17 年 4 月 1 日に広丘地区から分区し、独立した新しい地区としてスタート
- 平成 20 年に高出保育園が市営球場の北側に移転

2

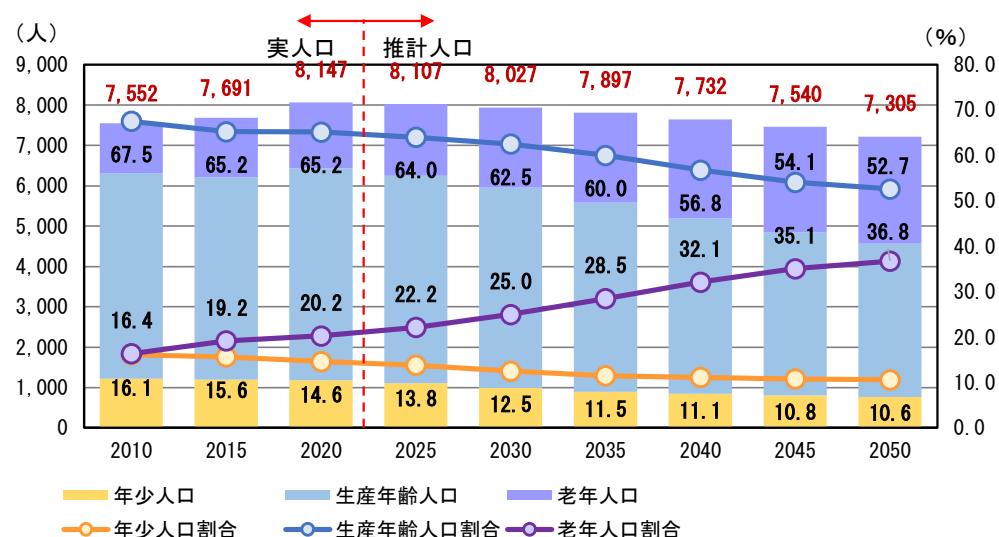
## 地区の概要



- 地区面積約 314ha
- 地区の全域が都市計画区域、約 56%が市街化区域

- 地区人口は 8,147 人(R2 年)、過去 10 年間で 595 人の増加
- 高齢化率(65 歳以上人口割合)は約 20.2%程度

### ●人口の推移



# 高出地区

地区別構想の骨子

3

## 地区の課題とまちづくりの目標



地区の強み



商業施設をはじめ多くの都市機能が集積する生活利便性の高さ

中心拠点・北部拠点の中間に位置する立地条件

子育て世代の転入の受け皿となっている良好な住宅地

市街地に近接する田川沿いの良好な田園風景

地区の弱み



国道 19 号と広丘東通線の整備の遅れ

一部市街地内の公園不足

工場と住宅が混在する地域が存在し、操業・生活環境の調和が図られていない

既成市街地内的一部にみられる狭い道路や行き止まり道路が危険

「強み」  
を生かす

「弱み」  
を克服する

地区の課題

緑豊かな街並みを守るために、田川沿いの優良な水田や畑の保全が必要

子供たちが安全・快適に過ごすことができる環境整備が必要

良好な住環境を提供するために用途混在解消や道路・公園等の改善が必要

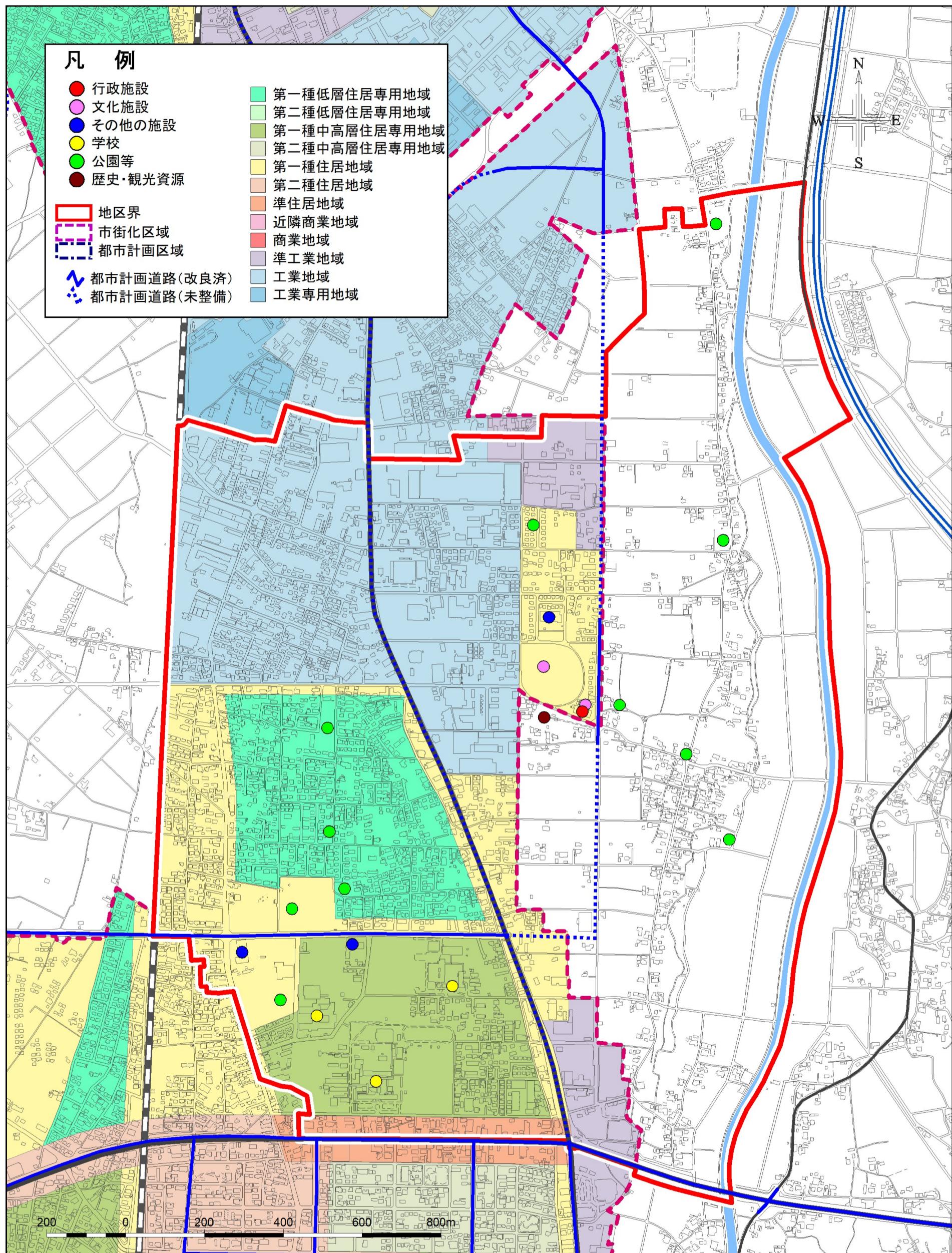
まちづくりの目標

様々な移動手段で周辺地区にアクセスできるまちづくりを進める

若い世代、子供たちの暮らしやすさに配慮した人にやさしいまちづくりを進める

良好な住宅地が周辺の農地や工場等と共に生・調和するまちづくりを進める

●地区の主な施設・資源の分布



●地区の災害ハザード

